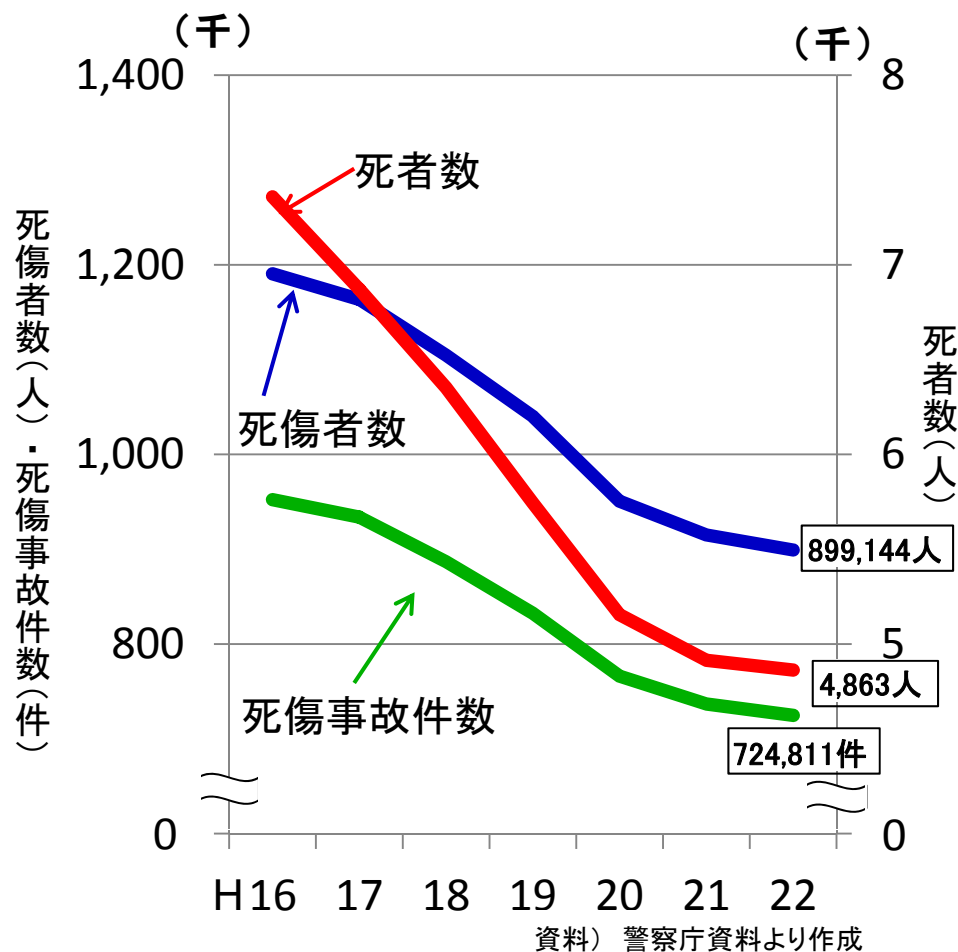


事故ゼロプラン

(事故危険区間重点解消作戦)

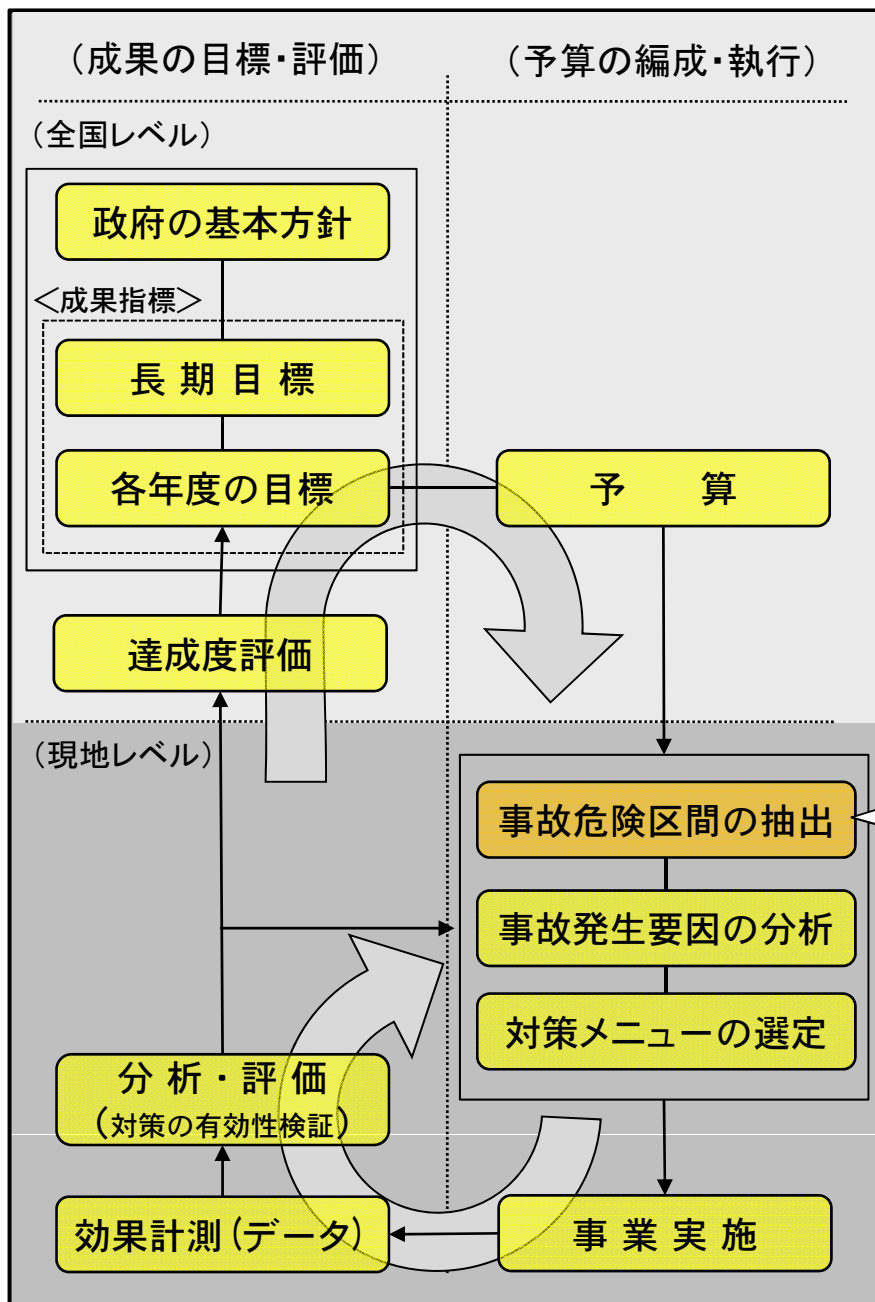
○ 平成22年の交通事故死者数は4,863人となり、死傷者数・死傷事故件数とともに減少しているが、近年下げ止まりの傾向

【交通事故死者数、死傷者数等の推移】



年	死者数 (人)	死傷者数 (人)	死傷事故件数 (件)
	対前年減少率	対前年減少率	対前年減少率
平成20年	5,155 10.3%	950,659 8.6%	766,147 8.0%
平成21年	4,914 4.7%	915,029 3.7%	736,688 3.8%
平成22年	4,863 1.0%	899,144 1.7%	724,811 1.6%

資料) 警察庁資料より作成



- 交通安全分野における「成果を上げるマネジメント」を『事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)』として展開
- 「選択と集中」、「市民参加・市民との協働」により重点的、集中的に対策を講じることにより効果的、効率的に推進

1. 事故の危険性が高い区間を明確化

- ①事故データに基づく区間
死傷事故率、重大事故等の発生件数等
- ②潜在的な危険区間
地域住民、利用者、市町村等からの指摘等

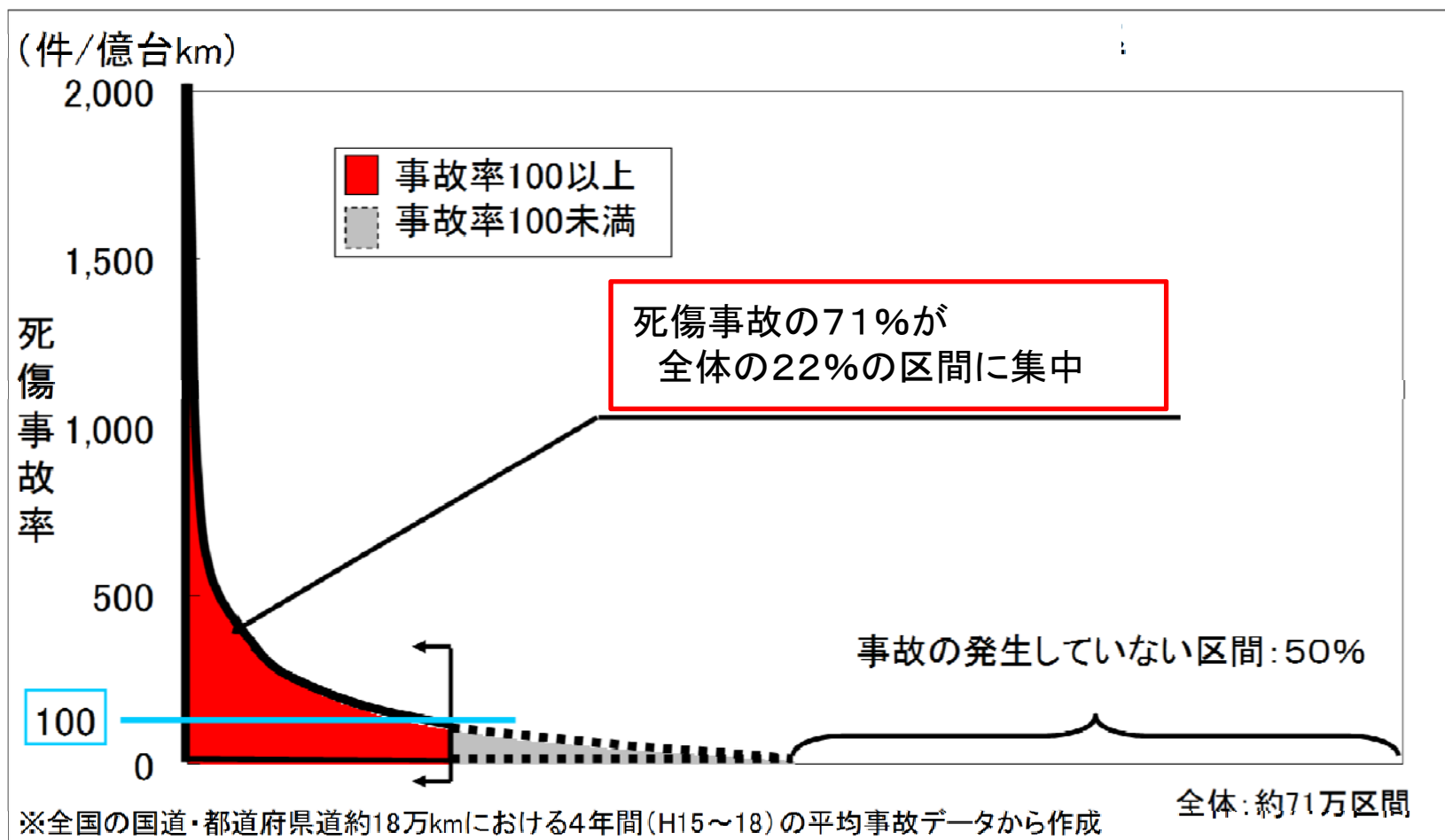
⇒ 全国で14,303区間を選定

(学識者、関係者等からなる委員会から意見を聴取)

2. 情報の共有化(利用者に危険箇所を認識してもらうことで事故削減にも期待)

- ①代表的な事故危険区間の公表
- ②注意喚起看板の設置
- ③地域住民・関係機関等との合同現地点検

- 地域の実情を踏まえ、死傷事故率、重大事故の発生状況等の事故データに基づき事故危険区間を抽出



- 潜在的危険区間の把握にあたっては、地域の実情を良く知っている市町村や道路利用者団体、地域住民等へのアンケート等を実施し、地域の声を幅広く収集
- 事故危険区間リストの作成にあたっては、学識経験者、道路利用者、関係機関等からなる委員会を設置し意見を聴取

【住民アンケートの状況(京都府)】

府内国道「危険」教えて

国土交通省近畿地方整備局が京都府内の直轄国道の危険箇所を把握してリスト化しようと、府民から情報を募っている。こうした情報や事故発生データを組み合わせたリストを基に対策を立て、早ければ来年度から危険解消に向け工事に着手する方針。

近畿整備局 情報募る

地域の声対策に反映

国土交通省は交差点の改良や歩道の設置など交通安全にかかわる事業で意思決定の透明性や効率性を高めようと、今年から地域の声を反映させる手法を全国的に導入した。

危険箇所の情報を募るのは府内の1、9、27、171号など計7国道。が沿線の市町村を回り、

住民の改善要望が多い場所を聞き取る。12月には事故危険区間リストを公表する見込みで、緊急性に応じた対策や必要な用地確保などを盛り込んだ対策案をまとめる。

同整備局は「地域の危険箇所は住民や自治体が一番知っている。より効果的な事業を行うため、地域のみなさんの声を集めたい」としている。

(高橋晴久)

平成22年11月1日 京都新聞

【委員会の開催状況(北海道)】



国道での事故 9%の区間に集中

「特に危険」573カ所公表へ

道内の国道で発生する交通死傷事故の半分は、全体の9%の区間に集中していることが、北海道開発局の分析で分かった。開発局は14日、このうち特に事故が発生しやすい573カ所を「危険区域」に選定し、同局の事故対策検討委員会(委員長萩原亨・北大大学院教授)に示した。今後、委員の意見を踏まえて、来年1月に公表する。

開発局によると、道内すべての国道を約2万4000区間に分類し、05〜08年に起きた交通事故を分析したところ、約2200カ所に50%が集中していた。9割が交差点で、うち4分の3は市街地だったという。

この中からさらに、死亡事故が起きたり、高い割合で人身事故が起きていた区域を抜き出し、地域住民の声を反映させて、573カ所を選定した。内訳は▽市街地の一般道41カ所▽郊外の一般道2332カ所▽市街地の交差点205カ所▽郊外の交差点95カ所。路線別で多いのは檜山、後志地方を通る国道5号(72カ所)▽札幌―室蘭間の国道30号(58カ所)▽札幌―旭川間の国道12号(54カ所)―などだった。

萩原委員長は「事故データに利用者の目線を組み合わせたのは画期的。より効率的に安全な道路づくりをするための基礎資料として活用できる」と話している。

平成22年12月15日 毎日新聞(北海道)

【吉井理記】

事故危険区間リストの作成状況

- 事故危険区間は、全国で14,303区間が選定され、うち事故データに基づく区間が約7割、市民等からの指摘区間(潜在的危険区間)が約3割となっている

整備局等	事故データに基づく選定区間数	市民等からの指摘に基づく選定区間数	選定区間数合計
北海道	278区間	194区間	472区間
東北	1,235区間	237区間	1,472区間
関東	3,823区間	1,145区間	4,968区間
北陸	182区間	100区間	282区間
中部	1,315区間	243区間	1,558区間
近畿	478区間	559区間	1,037区間
中国	1,139区間	359区間	1,498区間
四国	639区間	413区間	1,052区間
九州	1,277区間	503区間	1,780区間
沖縄	95区間	89区間	184区間
全国合計	10,461区間	3,842区間	14,303区間

※両方に該当する区間は事故データに基づく区間に集計

○ 事故危険区間リストの中で、代表的な区間を抽出し、パンフレットやホームページ等で公表

群馬県事故ゼロプラン (事故危険区間重点解消作戦)

群馬県は全国的にみて人口10万人あたりの死傷事故(推定)は、全国ワースト3位

事故データ及び道路交通事故等の課題抽出された課題区間かつ高い効果が期待される対策を実施していく

群馬県域移動性(モビリティ)向上(高崎)

宮城県 事故ゼロプラン 事故危険区間重点解消作戦

宮城県内で、あなたが一生涯18に約29件の死傷のうち0.25人が亡くなる

岐阜県 事故ゼロプラン 事故危険区間重点解消作戦

みんなでつくる安全 あんしん 岐阜のみち

宮城県の事故ゼロプランの報道画面
(平成22年12月27日TBCテレビ)

事故危険区間83を公表

国交省事務所 優先的に対策実施

国土交通省は、25日、群馬県内の主要な事故危険区間83を公表した。これらは、各都道府県の事故危険区間の中で、死亡・重傷事故の発生件数が多く、対策が急務と判断された区間である。公表された区間は、群馬県内の主要な幹線道路に集中している。国交省は、これらの区間を優先的に対策実施の対象とし、安全対策を進めるとしている。

路線名	区間
国道17号	前橋市元地社(群馬県西人口交差点)～高崎市小八木(小八木南交差点)
国道50号	前橋市朝日町2丁目～高崎市西片野町1丁目
群馬県道大田ヶ原線	みどり市大田ヶ原町大田ヶ原
群馬県道生井線	高崎市生井町1丁目
群馬県道高崎線	高崎市上大塚町
群馬県道高崎線	高崎市西井町地
群馬県道日野線	高崎市上石野町
群馬県道八幡野線	高崎市八幡野町

平成22年12月25日 読売新聞(群馬)

- 道路利用者が事故危険区間を適切に認識することによっても事故削減は期待できることから、代表的な区間において、事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の対象区間である旨の現地表示(注意喚起看板の設置等)を実施
- 事故が多発している区間、近年重大事故が発生した区間、通学路等、特に市民が関心を持っていると考えられる区間について、地元関係者、県警等の関係機関と合同で現地点検を実施

【注意喚起看板イメージ】



事故ゼロプラン進行中!!
 ~集中的・重点的に交通事故の撲滅を進めます~

ここは〇〇事故多発区間注意して走行しましょう!

当該交差点の事故発生状況! 〇月〇日に重大事故発生や〇件/年も発生

このような対策が必要です!

イメージ

当該交差点事故率曲線を活用 事業中看板

事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)とは?
 危険な箇所を地域の方と一緒に選定し、地域の方にも危険な箇所との認識を持っていただきながら、集中的・重点的に交通事故の撲滅を目指す取り組みです。

国土交通省 〇〇事務所 TEL000-000-0000

【現地点検の状況】



平成23年1月19日 静岡新聞